



日本刀の原料を生み出す「たたら吹き伝承」は、日本美術刀剣保存協会によって1977年に復元されました



砂鉄を採取した跡地は棚田となり、ブランド米や蕎麦を産出しています



製鉄や鍛冶など鉄の職人による金屋子信仰の総本社・金屋子神社



ヤマタノオロチ神話を伝える出雲神楽も製鉄の歴史と重ねて伝えられてきました



鉄の積出港として栄えた安来で生まれた民謡「安来節」

操業当時の貴重な姿を今に伝える菅谷たたら山内。山内とは、たたら製鉄の従事者だけで構成される小さな釜山町のこと

日本遺産「鉄づくりの物語」を発信 景観や暮らしに息づく伝統を観光資源に

島根県では昨年4月、「出雲國たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語」が日本遺産に認定されました。神代の時代から先人たちが紡いできた鉄づくりの物語は、今も地域の景観や暮らしに息つき、新たな観光資源として期待も高まっています。

地域の歴史や文化にも大きな影響

砂鉄と木炭を燃やして鉄をつくる日本古来の製鉄法である「たたら製鉄」。良質の砂鉄が豊富で木炭を得るための森林が広大だった島根県東部の奥出雲地方では、この製鉄法による鉄づくりが約1400年前から盛んに行われてきました。

天平5年(733年)にまとめられた『出雲国風土記』には「この地で生産される鉄は堅く、いろいろな道具をつくるのに最適である」と記され、江戸時代後半から明治にかけての最盛期には、全国で生産される鉄の約8割が奥出雲を中心とした中国山地の麓でつくられていたといえます。

複数の文化財を結びつけ地域に根付く物語を発信する日本遺産に「出雲國たたら風土記」が認定されたのを受けて、島根県雲南市産業観光部観光振興課の鈴木佑里子主幹は、「たたら製鉄が地域の歴史や文化にも大きな影響を与えてきた産業で

あり、現在の景観や暮らしにも息づいていることを内外へ積極的に発信していきたい」と語っています。

圏域の連携を通じて旅行商品化へ

たたら製鉄は、優れた鉄を生産するだけにとどまらず、原料となる砂鉄の採取跡地を広大な棚田として再生し、燃料となる木炭を産み出す山林の永続的な循環利用などを通じて、人と自然が共生する持続可能な産業として奥出雲地方の発展を支えてきました。さらに、鉄の流通は全国各地の文物をもたらし、華やかな地域文化を育むことにも貢献しています。

「出雲國たたら風土記」の日本遺産認定を申請した雲南市と安来市、奥出雲町の2市1町では、1980年代に鉄の道文化圏推進協議会が発足するなど、地域における鉄の歴史や文化を調査保存公開することで、人と自然との濃密な関わり合いを再発見し、発信していくという取り組みが長年にわたって進められてきました。

昨年4月からは島根県委託事業として地元企業が「たたら里周遊バス」を運行しており、たたら製鉄の歴史や文化を観光資源として活用する動きも加速しているようです。鈴木主幹は「たたらに育まれた圏域の素晴らしさを日本遺産の地として旅行会社に商品化してもらえるように、関係市町とも連携を深めていきたい」と意欲を示しています。